

閉鎖循環型陸上養殖の可能性と 将来展望

— ジャパンマリポニックス株式会社 —

この度は、シーフードショーに、参加させていただき、心より感謝いたします。

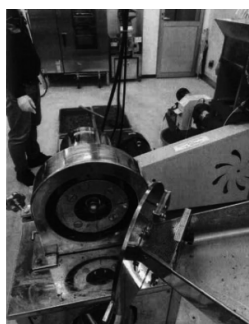
弊社は、陸上養殖を開始して前身時代から創業14年、ジャパンマリポニックス株式会社設立10年目となりました。やがて来る食糧難の時代に養殖事業を通して、社会に貢献するべく、開発と改良に鋭意努力してきました。日本の魚食文化を後世に伝えるためにも、魚介類の安定供給は喫緊の課題です。水と電気があればどこにでも設置可能な、閉鎖循環型陸上養殖が問題解決の処方箋の一つになり得ると確信しています。

昨今のマイクロプラ汚染、赤潮、台風などの災害の多発による被害は、漁業者や海面養殖業者を直撃しています。自然環境の影響が少ない陸上養殖事業は、今後大きな発展が見込められると思われま



実際の養殖システムと飼育水槽の魚

2025年には、動物性タンパク質の需要と供給のバランスが崩れ、タンパククライシスが来るという予測があります。弊社は内陸部で淡水魚（ヒレナマズなど）を大量生産できるシステムの開発を進めております。そのため設備販売先の顧客には、自社工場での種苗生産と、アラを利用した飼料の製造（SDGs）の支援をしています。陸上養殖における、設備の供給、飼育ノウハウ、種苗生産の支援、飼料製造支援などのトータルサポートを目指しています。



この機械で、骨ごと粉碎します



ホッパーにアラ粉末を投入します



冷凍保存していたアラを砕き乾燥します



魚粉100%のペレットです

生産魚のアラとへい死魚の餌再生利用装置の導入、
実用化に向けて開発中

今回、講師としてお招きに預かり、ありがとうございました。シーフードショーでは、設備の改良につながる各社の製品、濾過材や成魚の販路開拓、水産加工等に関して、数多くの出会いがありました。開催を計画していただきました多くの方々や運営をお世話してくださった方々に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。